

# 国語

## 注意

- 1 開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は、全て解答用紙に記入しなさい。
- 3 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- 4 解答を選択肢から選ぶ問題は、記号で書きなさい。
- 5 問題用紙は、冊子の形になっています。
- 6 問題は、表紙の裏を1ページとし、7ページまであります。開始の合図で問題用紙の各ページを確認し、始めなさい。
- 7 問題用紙の表紙と解答用紙の受検番号欄に、それぞれ受検番号を記入しなさい。

受検番号

一

次の【本の一部】、【資料】を読んで、後の1から5までの各問いに答えなさい。

【本の一部】

## 著作権保護のため削除

## 著作権保護のため削除

1 【本の一部】の~~~~線部①、②について、このように表現することで、何をより明確に読み手に伝えることができますか。最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自在に空を飛びまわるには、鳥の骨の重さを軽くするとともに、飛ぶために必要な筋肉の重さも同じように軽くなっているということ。
- イ 空を飛ぶためには、骨よりも筋肉の動きが重要なため、鳥の胸にある筋肉の重さとは反比例して、骨の重さは軽くなっているということ。
- ウ からだの軽量化のため、鳥の全体重に対する骨の割合は少ないが、飛ぶために必要な胸の筋肉の重さは軽くなっているということ。
- エ 鳥が空を飛ぶためには、丈夫な骨と胸の筋肉が不可欠であるため、骨と胸の筋肉の全体重に対する割合はおおよそ同じであるということ。

2 【本の一部】の——線部 a について、これはどのような需要ですか。五十字以内で書きなさい。

3 【本の一部】の——線部bについて、どのようなことが同じなのか。最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鳥のつばさを上げたり下げたりするためには、腕の筋肉と同じように、つばさを下ろす筋肉よりも上げる筋肉が重要であるということ。  
イ つばさや腕の筋肉の働きは、鳥も人間も同じで縮むことしかできないため、その機能を補うために胸の筋肉が発達しているということ。  
ウ 鳥も人間も筋肉のもつ働きは同じであるので、筋肉が一つあれば腕やつばさを自由自在に上げたり下げたりすることができるということ。  
エ 腕の筋肉と同じで、鳥のつばさの筋肉は縮むことしかできないため、つばさを上げる筋肉と下ろす筋肉の両方が必要であるということ。  
4 【資料】の——線部について、「縦通材（ストリンガー）」が飛行機の機体の強度を高めているように、鳥の骨の強度を高めている役割をしているものを、【本の一部】の文章中から三字で抜き出して書きなさい。

5 【本の一部】と【資料】の二つの文章に共通して書かれていることはどのようなことですか。解答欄の「人間が作り出す巨大な建築物の鉄筋構造や飛行機の機体には、」という書き出しに続けて、四十字以内で書きなさい。

二  
次は、あさひさんが読んだ【本の一部】と、あさひさんが書いた【あさひさんのノート】です。これらを読んで、後の1から5までの各問いに答えなさい。

【本の一部】

## 著作権保護のため削除

十月二日

◆単元目標

紹介したい言葉について、具体的な例を挙げてスピーチをしよう。

○課題

子どもと大人の言葉の使い方には、どのような違いがあるのか。

・「耕す」の意味

作物を植える準備として、田畑を掘り返す。

「耕す」の使い方

三歳の女の子：ぬか床を「たがやす」

・「将来の準備をする」という意味では使っていない。

・「たがやす」と言った理由

Ⅱ ( a ) が「似ている」から。

フロの文筆家：「才能を耕し尽くす」

(阿部謹也さん)

・あえて普通には言わない表現

・「耕し尽くす」(耕す+尽くす)Ⅱ複合語

・尽くすという言葉があとについて、

「すっかりする」という意味が

加わる。

川端康成：「立ち上がる」「走り出す」

・落ち葉を生き物のように表現

○まとめ

「本質的に異なるところ」

b

メモ欄

前のエピソード

ことばの発達

子どものことばの

意味の覚え方

大人の目から見て

比喩と言ってもよい

ような言い方をする

時期がある。

二歳・三歳

→

・足でナゲル

(ケル)

・歯で唇を

フンジャッタ

(カム)

比喩表現

・直喩(明喩)

・隠喩(暗喩)

○擬人法

十月三日

○課題

筆者の主張を踏まえたスピーチメモを作るためには、どのような言葉がふさわしいか。

筆者の主張

「ことばに対する関心を持ち続け、ことばの意味の探究を続けて、感性を磨いていきましよう。」

紹介したい言葉

ア「通り抜ける」

① 近道をするために、友人がビルの中を  
通り抜けた。

② 春を告げるために、風が急ぎ足で通り  
抜けた。

イ「積み重ねる」

① 荷物を運ぶために、引越し屋さん  
箱を積み重ねた。

② ( )

○

スピーチメモ

二つの言葉を紹介

ア「通り抜ける」

擬人法で使われる場合がある。

イ「積み重ねる」

二つの意味がある。

言葉の意味の探究はおもしろい。

○振り返り

○振り返り

今日は、紹介したい言葉の意味や使い方を  
考えて、スピーチメモを作ることができた。

次の時間は、自分の言葉に対する考え方も  
入れながら、スピーチをしたい。

メモ欄

① 中を通って向こ  
うへ行く。

② 擬人法

① 物を上にいくつ  
も重ねて置く。

② 繰り返し行い、  
高めていく。

1 あさひさんは、【あさひさんのノート】に、三歳の女の子が「たがやす」と言った理由として筆者が考えたことをまとめました。( a )  
に当てはまる適切な言葉を【本の一部】の文章中から二十字で抜き出して書きなさい。

2 あさひさんは、【あさひさんのノート】の b に、「本質的に異なるところ」を、具体的にまとめました。b に当てはまる内容を【本の一部】や【あさひさんのノート】のメモ欄に書いてある言葉を使って書きなさい。

3 【本の一部】の  線部について、この文が引用されている意図として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「立ち上がる」は日常で一般的に使われる動詞であるため、比喩的に使ったとしても、詩的な表現にならないことを表そうとしている。
- イ 三歳くらいの子どもが立ち上がったたり、走りだしたりするという行動の発達の様子を、落ち葉の様子になぞらえて表現しようとしている。
- ウ 子どものような創造性のある表現を大人のことばの熟練者が、自分では意識せずに用いながら文章を書いていることを示そうとしている。
- エ 「立ち上がる」という日常で普通に使われる動詞が、熟達した表現者によって新しい表現になっていることを具体的に示そうとしている。

4 【あさひさんのノート】の ( c ) に、「積み重ねた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「積み重ねた」の主語を明らかにして、「何のために」、「何を」繰り返して行い、高めていくのがわかるように書くこと。

5 【あさひさんのノート】の「筆者の主張」や「振り返り」を読んで、あなたは、言葉の意味の探究を続け、言葉に対する感性を磨いていくために具体的にどのようなことができますか。次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 二段落構成にすること。

条件2 第一段落にできることを具体的に書き、第二段落にそのように考えた理由を書くこと。

条件3 原稿用紙の正しい使い方にしたがって、百字以上、百四十字以内で書くこと。

三

次の1から4までの各問いに答えなさい。

1 次の①から⑤までの文中の——線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。

- ① 寒さで体がヒえる。 ② 絵をテンラン会に出品する。 ③ ハワイから日本まで太平洋をコウカイする。
- ④ 無駄な手間をハブク。 ⑤ 彼はわたしの頼みにナンシヨクを示した。

2 次の①から⑤までの文中の——線部の漢字の正しい読みをひらがなで書きなさい。

- ① ペンを拝借する。 ② 洗濯した衣服を干す。 ③ 誕生日を祝う。
- ④ 山頂を目指す。 ⑤ 炭酸水を飲む。

3 次の①と②の文で、それぞれ最も適切なものを、( )の中のアからエまでの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 彼がこの本に興味をもったのは、(ア) とつくに イ もしも ウ おそらく エ なくなく (友人の影響だろう。
- ② 今度の音楽会に人がどれだけ集まるのか、(ア) 勝負 イ 見当 ウ 条件 エ 白黒 ( ) がつかない。

4 次の『枕草子』の【文章の一部】とその【現代語訳】です。これらを読んで、後の①から③までの各問いに答えなさい。

【文章の一部】

夏は□□。月の頃はさらなり。闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。雨など降るも、をかし。

【現代語訳】

夏は□□。月の出ている頃は言うまでもない。闇もやはり、螢が多く飛びかっている(のがよい)。また、ほんの一、二匹が、ほのかに光って飛んで行くのも、趣がある。雨などが降るのも、趣がある。

① 【文章の一部】の中の——線部「飛びちがひたる」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

② 【文章の一部】の中の□□に当てはまる適切な言葉を漢字一字で書きなさい。

③ この作品と同じ「随筆」に分類できる作品として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 『徒然草』 イ 『竹取物語』 ウ 『万葉集』 エ 『平家物語』



